



つらくても楽しい留学



人文学部社会科学科 4年
及川紗希

私はいつでも自分に自信がありません。アメリカ留学なんて聞くと、キラキラしていて、アグレッシブな明るい人が頭に浮かぶかもしれませんが、そういう意味では私は留学生っぽくないかもしれません。

米テネシー工科大学に正規交換留学生として 2014 年 8 月末から滞在し、ちょうど 2 学期目がスタートしたところです。日本で言うと、4 年生の後期。帰国するのは 15 年 5 月なので、茨大に戻る頃には 5 年生、そう、留年なのです。

留学申請をする際、私が最も気にしたことはこれでした。就活に響かないだろうか、留年すると余計に学費がかかるなあ、と。

それでも留学しようと決めたのは、一言で言ってしまえばつらい経験をせずに就活をして社会人になるのが怖かったからです。

アメリカに行こう、絶対逃げ帰れない距離に身を置いて、甘えさせてくれる家族や友達、恋人がいないところで自立しよう、ついでに英語も身につけたら就活にも役立つし、1 年ぐらいアメリカ暮らしも悪くないなど。

現実には、思った以上に厳しいものでした。準備には想像以上のお金がかかったり、予防接種やビザの為に東京に行ったりと、バタバタでした。もちろん、計画性の無さが災いしています。



大学の敷地で映画！

ステーキ(一番小さいサイズ)



到着したその日に、手持ち荷物の MacBook を紛失。空港での盗難ということで落ち着き、保険がおりたものの、問い合わせや警察で盗難届など、ここでもバタバタ。

授業は留学生用の英語の授業が 1 つしか無く、いきなり 3 つの専門科目をとることに。授業はちんぷんかんぷん、IC レコーダーと電子辞書を使いながら夜まで図書館で予習復習、宿題の内容が聞き取れずに毎回授業後に教授に聞きにっていました。おまけにご飯は美味しくないのに高カロリー。

と、ここまで読んでいた方は「じゃあ、留学しない方が良いのかな」と思うかもしれませんが、私はこのような日々を過ごしてきたことが誇りだったりするのです。留学って大変なことも多いけど、遅くまで図書館にいる自分が好きだったりするのです。

日本にいてこんなに必死になったことはあったか、と。アメリカでは必死にならざるを得ません。分からないことは聞かなければ何も分かりませんし、助けてもらわなければ出来ないこともたくさんあります。

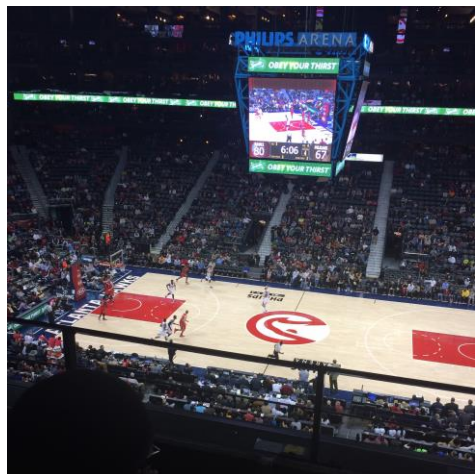
日本語ならばなんてことないことも、英語だと自分の存在が子供のように思うこともあります。プライドは粉々に砕け、悔しい思いもたくさんします。でも、

そんな日々を過ごした後は、語学力以上の何かを得ることが出来るのだろうと思います。それが何か今はまだ分かりません。忍耐力かもしれませんし、適応力、コミュニケーション力、俯瞰力、行動力、もしくは全てかもしれません。それってとても素敵だと思いませんか？



ハロウィンドーナツ作りしました

楽しいことももちろん沢山あります。他の皆さんが書いていたので省略しますが。社会人になったら海外に行く機会も減るでしょう。少しでも留学を考えている人はぜひ留学してください。バイト、奨学金などでお金はなんとかなるし、行ってしまえば暮らせてしまうものです。



アトランタ観光の際、NBA 観ました

授業も、最初こそ大変すぎて逃げたくなりますが、少し経てばコツも分かり、少しずつ予習復習も手を抜けるようになります。

TOEFL の点数は留学規定スレスレで、日本で英語の授業をとっていなかったし、英会話スクールや語学学校にも行っていませんでした。今思えば、よくそのスペックでアメリカに行ったなと思います。

それでも前学期の成績は悪くなかったし、特に生活で不自由することはなくなりました。最初はこんな日が来るなんて想像もできませんでしたが、あと4ヶ月弱、もがき続けようと思います。長くなりましたが、自分を成長させる為の留学、是非ご検討ください！！

(終)